

よみ

親おやの意見いけんと茄子なすびの花はなは千せんに一つひとも仇あだはない

なぞりがき

親の意見と茄子の花は千
に一つも仇はない

いみ

親おやが子供こどもに与あたえる意見いけんは、一つひともむだがない
ので、よく聞きくべきである。

よみ

親の光は七光り
おや ひかり ななひか

なぞりがき

親の光は七光り

いみ

ほんにん じつりよく さいのう
本人に実力や才能がなくても、親の社会的
ちい めいせい おんけい う
地位や名声によって恩恵を受けること。

よみ

飼い犬に手を噛まれる
か いぬ て か

なぞりがき

飼い犬に手を噛まれる

いみ

日頃から世話をしたり、可愛がっていた人に
ひごろ せわ かわい ひと
思いがけなく裏切られること。
おも うらぎ

よみ

がくもん おうどう
学問に王道なし

なぞりがき

学問に王道なし

いみ

がくもん おさ
学問を修めるのに、
てがる ほうほう あんい ほうほう
手軽な方法や安易な方法
はない。

五十五

よみ

風が吹けば桶屋が儲かる
かぜ ふ おけや もう

なぞりがき

風が吹けば桶屋が儲かる

いみ

ある出来事が、できごと 全く関係なさそうな場所ばしょに
えいきょう あた 影響を与えること。また、あてにならない期待きたい
をすること。

よみ

かせ お びんぼう
稼ぐに追いつく貧乏なし

なぞりがき

稼ぐに追いつく貧乏なし

いみ

いっしょうけんめい はたら びんぼう
一生懸命に働いていれば、貧乏になること
はない。

よみ

勝^かって兜^{かぶと}の緒^おを締めよ^し

なぞりがき

勝^かって兜^{かぶと}の緒^おを締めよ^し

いみ

物^{もの}事^{ごと}が順^{じゅん}調^{ちよう}に運^{はこ}んでいても気^きを抜^ぬかずに
行^{こう}動^{どう}せよ。

よみ

勝かてば官軍負かんぐんければ賊軍ぞくぐん

なぞりがき

勝てば官軍負ければ賊軍

いみ

戦たたかいに勝かった者ものが正義せいぎとなり、負まけた者ものは
不正ふせいとなる。

よみ

かね てんか まわ もの
金は天下の回り物

なぞりがき

金は天下の回り物

いみ

かね せけんぜんたい まわ
お金は世間全体を回るもので、
ひとり も ぬし
一人の持ち主
ところ
の所にとどまらないものだ。

六十

よみ

かねも けんか
金持ち喧嘩せず

なぞりがき

金持ち喧嘩せず

いみ

けんか けんか
喧嘩をすると損をするばかりだから、
金持ち
は人と争うようなことはしない。